

特別支援学級における自立活動の指導に関する研究

特別支援教育室 蒲池 慎一 高橋 基子 川本 孝
越智 宣和 鶴井 宏治

研究協力者 愛媛大学教育学部准教授
苅田 知則

1 研究の目的

近年、小・中学校の特別支援学級で学ぶ子どもが増加しており、多様な障がいの種類や状態等に
応じた指導の充実が求められている。また、平成29年3月告示の小・中学校学習指導要領では、特
別支援学級における指導において「障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、
特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動を取り入れること」が示された。

自立活動は、特別支援学校の教育課程に特別に設けられた指導領域であり、個々の子どもの障が
いの状態や特性及び心身の発達等に応じて、授業時間を特設して行ったり、各教科等における指導
と関連させたりしながら、学校の教育活動全体を通して指導することが重要である。一方、先行研
究では、特別支援学級における自立活動の指導の課題として「指導内容が不明確である」「組み立
て方が分からない」といったことが挙げられており、本県でも同様の課題があると考えられる。

そこで、特別支援学級における自立活動の指導の手引きを作成して提供することで、自立活動の
指導への支援が図られると考え、2か年継続の研究として取り組むこととした。

2 研究の内容

(1) 手引きの作成

「特別支援学級における自立活動ガイドブック（案）」（以下「ガイドブック（案）」）は、
自立活動の教育課程上の位置付けや目標等を示した「自立活動の概要」と指導計画作成の手順を
まとめた「自立活動の進め方」で構成した。その際、特別支援学校学習指要領等の情報を精選し
て簡潔にまとめたり、項目ごとにポイントを示したりした。また、「自立活動の進め方」には、
実態把握から評価までを書き込む「手順シート」や子どもの状態例等をまとめた「補助資料」を
加え、実際に書きながら活用できるものとした。

(2) 協力学校への意見聴取

特別支援学級担任に意見聴取した結果、「ガイドブック（案）」は、概ね読みやすく、分かり
やすいこと、指導計画の作成に役立つことが推測された。しかし、レイアウトの検討や説明の補
足、各障がい種の事例、「補助資料」の多面的な活用などが課題として挙げられた。

(3) 専門的な立場からの助言

愛媛大学教育学部苅田知則准教授から、「自立活動の進め方」について肯定的な意見をいただ
いた。その上で、「補助資料」を見ること自体が負担となる場合があることや様々な障がい種の
指導事例があるとよいことなどの助言をいただいた。

(4) 「ガイドブック（案）」の再考

イラストの配置や吹き出しの向きの統一、実態把握の整理における例示の追記、障がい種別に
整理した「補助資料」の追加などを行った。

3 研究のまとめ

本年度は、特別支援学級における自立活動の指導を支援する資料として、「ガイドブック（案）」
を作成し、意見聴取の結果や助言を基に再考を行った。

来年度は、再考した「ガイドブック（案）」を用いて自立活動の指導を行い、PDCAサイク
ルの一連の流れの中で活用できる資料であるか検証する。また、様々な障がい種における「手順シ
ート」の記入例や指導事例を追加して「ガイドブック」を完成させ、各学校に提供できるようにし
たい。